

令和7年8月31日(日)さくらんぼタントクルセンターにて、日本障害者歯科学会歯科衛生士連携委員会共催による研修会が「障害のある方のために今できること」と題して行われた。障害の受容にはショック、否認、悲しみと怒り、適応、再起という段階があり、肯定と否定を螺旋のように繰り返すことを知った。大切なことは、病気や障害の理解をして安心感に繋げ、安全確保とコミュニケーションをとり、特別ではない普通の歯科衛生士業務をすることである。この研修会により、いろいろなヒントや、気づきをいただいたので活かしていきたい。

